



平成30年度

# 施政方針

藤 沢 市

# 目 次

はじめに.....	1
行財政改革の推進.....	3
郷土愛あふれる藤沢づくり.....	4
まちづくりテーマ1「安全で安心な暮らしを築く」.....	4
まちづくりテーマ2「『2020年』に向けてまちの魅力を創出する」.....	6
まちづくりテーマ3「笑顔と元気あふれる子どもたちを育てる」.....	8
まちづくりテーマ4「健康で豊かな長寿社会をつくる」.....	11
まちづくりテーマ5「都市の機能と活力を高める」.....	13
平成30年度当初予算の概要.....	16
新たな年度に向けて.....	17

## はじめに

市民の皆様からの温かいご支持とご信託により，市政 2 期目の重責を担ってから，折り返しとなる 3 年目を迎えようとしております。

この間，多くの市民の方々，また議会の皆様にご理解とご支援をいただき，職員と共に「未来に向けた元気なまちづくり」をテーマに，着実に市政運営を進めることができました。

改めて，この 1 年を振り返りますと，基本に立ち返り，基礎を固め，たゆまぬ努力を惜しまない決意のもとに，社会環境の変化に対応できる新たな組織体制を構築し，市政運営の両輪となる「市政運営の総合指針 2020」及び「行財政改革 2020 基本方針」をスタートさせ，様々な取組を進めてまいりました。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック 競技大会に向けましては，1000 日前イベントのほか，セーリング体験や講演会などを開催し，オリンピックに向けた気運の醸成を図りました。開館 1 周年を迎えた藤澤浮世絵館においては，記念事業として「江の島と名品浮世絵展」を開催し，藤沢の歴史や文化に触れる機会を設けるとともに，オリンピックやワールドカップのセーリング競技会場となる「江の島」の魅力を発信してまいりました。

また、オリンピック会場にふさわしい健康都市として、従来の路上喫煙禁止区域を拡大し、市内全駅の周辺を路上喫煙禁止区域に指定するとともに、公共施設の敷地内禁煙を進めてまいりました。

12月に完成した本庁舎は、災害時の防災拠点機能を備えるとともに、市民利用の多い窓口を低層階に集約するなど、利用しやすい配置としました。ユニバーサルデザインを取り入れ、省エネ等環境への配慮も行い、市民広場や市民利用会議室など市民交流の場を設け、人と環境にやさしい市民に親しまれる庁舎として、これからの市政の根幹となる基盤づくりができたと思っております。

私は、昨年末にこの1年を表す漢字一文字として、元気の「気」を選びました。

2020年のオリンピックに向けて気運の醸成を図るなど、気概を持って元気なまちづくりを推進してまいりました。2018年は、これまで以上に「市民に頼られる市役所」を目指し、職員とともに一丸となって、まちが更に元気になるような施策を展開してまいります。

日本全体が人口減少社会にある中で、本市の人口は増加を続け、43万人を目前に控えており、引き続き、湘南の元気都市にふさわしい魅力と活力に満ちた持続可能な市政運営が求められています。

私は、「自治体の政策は日々の市民生活や地域への愛着の中から創造される」という信念を持って、行財政改革の推進を図りながら「未来に向けた元気なまちづくり」を着実に進めることにより、湘南の元気都市「郷土愛あふれる藤沢」の実現を目指してまいります。

## 行財政改革の推進

次に、行財政改革についての基本的な考えを述べます。

本市の課題や社会経済情勢の変化に対応するため、「行政改革」「財政改革」「職員の意識改革」「市民サービスの質的改革」を4つの柱とする「藤沢市行財政改革2020基本方針」を昨年4月に策定しました。また、この基本方針に基づき、「ITガバナンスの推進」や「窓口業務のあり方の検討」など、24の個別課題をまとめた「藤沢市行財政改革2020実行プラン」を本年1月に策定し、具体的な取組を進めております。

昨年は、各部局が主体的に、BPR（ビジネス・プロセス・リエンジニアリング）の観点から、事務事業の抜本的な見直しに着手いたしました。また、「適正な定員管理」をより一層進めるため、簡素で効率的・効果的な組織を目指した「定員管理基本方針2020」を策定いたしました。

平成30年度は改革期間の2年目として、本庁舎の建設

と合わせて無線LANを設置したICT環境を活用して、全職員が利用する職員情報システムを更新するなど、更なる事務効率の改善を図ります。また、事務事業の抜本的な見直しを更に進めるため、長年にわたり実施している事業や本市が独自に拡充した事業等については、開始当初の目的の達成状況や、事業を取り巻く環境の変化等を改めて検証し、平成31年度予算に反映をさせていただきます。

豊かな市民生活の基礎となる都市力を強化し、希望に満ちた未来に向けて更なる本市の発展に資するよう、行財政改革を確実に進めてまいります。

## **郷土愛あふれる藤沢づくり**

「市政運営の総合指針2020」における5つの「まちづくりテーマ」に基づき、平成30年度の重点事業と関連する主な取組についてご説明いたします。

### **まちづくりテーマ1「安全で安心な暮らしを築く」**

まちづくりテーマの1つ目は「安全で安心な暮らしを築く」であります。地震、津波、風水害、都市災害をはじめ、交通事故や犯罪、テロなどへの対策を充実するとともに、事前の防災や減災対策を推進する必要があります。

そこでまず、「災害対策の充実」として、下藤が谷ポンプ場に新たな津波避難施設設置に向けた準備を進めるとと

もに、災害発生時に、地域住民や観光客の方々が円滑に避難できるよう、避難目標となる浸水想定区域外や津波避難ビルまでの間に路面標識の設置を進めます。

想定しうる最大規模の降雨に対応した洪水ハザードマップの作成に向け、本市で管理する白旗川、滝川の河川測量を実施します。

防災備蓄資機材の充実に向け、平成29年度からの繰越事業により、備蓄拠点となる長後市民センター多目的広場に防災備蓄倉庫を整備します。

従来の木造住宅耐震改修補助制度に加え、新たに分譲マンションに対する耐震改修工事等補助制度を創設し、住宅の耐震化をより一層進めてまいります。

次に「危機管理対策の推進」として、震災時にも有効な水源となる耐震性防火水槽の新設や、風水害時の迅速な救助活動及び住民避難対応のためのFRP（繊維強化プラスチック）製ボートを配備します。

また、災害時における要配慮者への支援対策の充実に向けて、福祉などの専門職ボランティア制度を創設してまいります。

さらに「防犯・交通安全対策の充実」として、歩行者の安全かつ円滑な通行の確保や自転車等の利用者の利便性の向上を図るため、湘南台駅東口、善行駅東口の自転車等駐

車場を整備します。

不特定多数の人が往来する主要駅の駅前広場などに、防犯カメラの設置を進め、犯罪のない安全で安心な都市の実現を目指してまいります。

まちづくりテーマ2「『2020年』に向けてまちの魅力を創出する」

まちづくりテーマの2つ目は「2020年に向けてまちの魅力を創出する」であります。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を市民一人ひとりが実感、共感を持って迎えられるよう、「見る」「楽しむ」「応援する」「支える」といった市民参加の取組を推進してまいります。

そのため、オリンピック・パラリンピックに向けた気運を高める取組として、カウントダウンイベントや、オリンピック・パラリンピック出場経験者によるスポーツ教室のほか、新たに、商店街へのフラッグ掲出等を実施いたします。

また、パラリンピックを契機としたパラスポーツの推進につきましては、パラスポーツフェスタや、ボッチャ等のパラスポーツの体験会、競技大会を実施するなど、障がいの有無に関わらず、子どもから高齢者まで、誰もが生涯にわたりスポーツを楽しむことができるよう、一層、取組を進めてまいります。



さらには、障がい者スポーツの推進に向けた取組として、行政、企業、社会福祉法人などが中心となり、障がい者スポーツを行う団体や個人の活動を支援する（仮称）「障がい者スポーツ連絡協議会」を平成30年秋頃を目途<sup>もくと</sup>に設立してまいります。

次に、市民にセーリング競技を広く知っていただくため、セーリング艇の出張陸上体験会の市内各所への拡充や国際レース等の海上観戦イベントなどを実施します。

また、本年から3年連続で開催されるセーリングワールドカップシリーズ江の島大会に対する支援を行うとともに、その開催が地域の更なる活性化に資するよう神奈川県や関係団体と連携し、気運の醸成を図ってまいります。

市民参加型の大会の実現に向け、本年の9月中旬から予定されている大会ボランティアの募集にあわせ、競技会場となる関係自治体が運営する都市ボランティアについて、募集を開始いたします。さらに、市民の誰もが個々の状況に応じて大会に関わることができるよう、市民団体との協働による（仮称）「市民応援団」を設立し、幅広い市民参加の機会を創出してまいります。

次に「オリンピック・パラリンピックを契機とした都市の魅力（レガシー）の創出」については、片瀬・江の島の玄関口としてふさわしい空間となるよう、片瀬江ノ島駅

駅前広場の整備に向けた取組を進めるとともに、市が管理する江の島周辺の公衆トイレの再整備を進めます。

姉妹都市である松本市と連携して、松本市美術館において（仮称）「江の島浮世絵展」を開催し、江の島を中心とした作品展示を行うとともに、講演会やワークショップなどのイベントを開催し、江の島を通じて藤沢の魅力を発信してまいります。

外国人観光客などを対象に、華道や茶道など日本の伝統文化の体験イベントを、藤沢市文化団体連合会と連携して開催いたします。

藤沢市アートスペースにおいては、3回目となる全国公募展に加え、姉妹都市マイアミビーチ市ゆかりの芸術家によるアート展などを開催いたします。

### まちづくりテーマ3「笑顔と元気あふれる子どもたちを育てる」

まちづくりテーマの3つ目は「笑顔と元気あふれる子どもたちを育てる」であります。次代を担う子どもたちの心身の健康と「生きる力」を育むため、妊娠期からの各段階に応じた子育て支援や教育環境の整備を推進します。

まず「子どもたちの笑顔あふれる学校教育の推進」として、児童支援担当教諭を小学校全35校に配置することにより、児童一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細かな教育を推進してまいります。

平成31年度に六会小学校に特別支援学級を開級するため、平成30年度はその準備を行い、特別な教育的配慮を要する児童の支援に努めてまいります。

小学校におけるICTを活用した授業を推進するとともに、教職員が校務を適切かつ効率的に行えるよう、小学校へのパソコンの整備を進めます。また、小・中・特別支援学校全校に学校グループウェアを導入し、ICTを活用した業務改善により、教職員の負担軽減に向けた取組も進めてまいります。

中学校給食については、成長期に必要な栄養バランスのとれた安全な食事の提供を行うため、既にデリバリー方式による給食を北部10校、南部2校において実施しておりますが、平成30年度は、南部地域での実施校を拡大してまいります。

学校施設の環境整備につきましては、平成29年度の国の補正予算を活用して、村岡小学校ほか3小学校の空調設備工事と、湘洋中学校ほか2中学校のトイレ改修工事を前倒しして実施してまいります。

本年度から設計業務を進めている六会中学校屋内運動場改築事業につきましては、平成32年2月の供用開始を<sup>もくと</sup>目途に、建設工事に着手します。

鵜南小学校の再整備については、津波避難施設としての

機能を充実させるとともに、近隣の浜見保育園，よつば児童クラブとの一体的な整備に向けて基本・実施設計に着手いたします。

次に「子どもの健やかな成長に向けた支援の充実」として、安心して子育てができる環境を整備するため、老朽化した公立，法人立保育所の再整備を進めてまいります。保育所等の定員については、昨年4月比で497人増やすとともに、見直し後の保育所整備計画に基づき、保育需要の高い地域を中心に計画的に施設整備を進めるなど、様々な取組を推進してまいります。

放課後児童クラブにつきましても、「藤沢市放課後児童クラブ整備計画」に基づき、6小学校区において7クラブを整備し、定員の拡大を図ってまいります。

小児医療費助成につきましても、平成31年4月から通院に係る医療費助成の対象年齢を中学3年生まで拡大するため、必要となるシステム改修などの準備を進めます。

次に「支援を必要とする子ども・若者への支援の充実」として、本市独自の給付型奨学金制度につきましても、平成29年度に選考した奨学生の入学後のアフターフォローを行うとともに、新たな奨学生を募集してまいります。

また、就学援助事業の一部見直しを行い、これまで入学後に支給していた中学校の新入学に要する費用を、入学準

備金として、入学前に前倒しして支給します。

#### まちづくりテーマ4「健康で豊かな長寿社会をつくる」

まちづくりテーマの4つ目は「健康で豊かな長寿社会をつくる」であります。すべての市民が健康と生きがいをもって、住み慣れた地域でいつまでも元気に、安心して暮らすことができるよう、保健・医療・福祉・介護など社会保障の充実を図り、支えあう地域を築くとともに、健康増進の取組を促進することで、健康で豊かな長寿社会を実現します。

そのためにまず「多様な主体による支援の充実」として、高齢者、障がい者、生活困窮者をはじめ、すべての市民が、住み慣れた地域で、その人らしく安心して暮らし続けることができるよう、藤沢型地域包括ケアシステムを推進するとともに、地域の困りごとの解決や、支えあいの要となるコミュニティソーシャルワーカーを3人増員し、取組を拡充いたします。

高齢者人口が増加している善行地区と湘南大庭地区へ、地域包括支援センターのサテライトを新たに設置してまいります。

障がいのある方やその家族の生活支援の充実を図るため、発達障がい専門の相談支援事業所に対して、新たに臨床心理士を配置し、心理検査等を通じた行動面の傾向分析

などにより、よりきめ細かな対応ができる体制づくりを進めます。

障がい者の家族や支援者の急な不在等に対応するため、緊急一時的な宿泊ができる体制を整備してまいります。

次に「健康寿命日本一に向けた健康増進・介護予防等の促進」として、本年度策定した「健康寿命日本一をめざすリーディングプロジェクト」の取組を効果的に進めるために、「健康を 楽しく！」をテーマに、市民一人ひとりが楽しく気軽に健康づくりに取り組むことができるよう、行政が主体となって「知らせる」「きっかけをつくる」取組を行ってまいります。

健康づくりには、市民自らが定期的に健康状態をチェックすることが重要であることから、検診受診率の低い乳がん・子宮頸がん検診について、検診車による乳がんマンモグラフィ検診の拡充や啓発ステッカーによる周知啓発を行うなど、受診率向上を目指してまいります。

次に「コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進」として、現在、基本型をはじめ、市内33カ所で展開している「地域の縁側」事業を、平成30年度には40カ所を目標に取組を進めます。

さらに、「13地区のまちづくり」については、職員が地域の皆様の声や生活課題を受けとめ、想いを共有しながら、

地域まちづくり事業を推進するとともに、マルチパートナーシップに基づき、自治会・町内会、NPO法人や民間企業との連携、協働などにより、「人と人とのつながり」を大切にした住民主体の地域づくりを進めてまいります。

#### まちづくりテーマ5「都市の機能と活力を高める」

まちづくりテーマの5つ目は「都市の機能と活力を高める」であります。

暮らしやすい藤沢と魅力ある地域を創造するため、ハード、ソフト両面からの社会基盤の整備を進め、都市としての持続性と活力を高める取組を推進します。

そのためにまず「都市基盤の充実と長寿命化対策の推進」として、藤沢駅周辺の再整備については、引き続き北口デッキの再整備工事を進めるとともに、南北自由通路と南口駅前広場の再整備に向けた検討及び地下通路のリニューアル調査・概略設計を進めます。また、南口デッキの塗装塗替工事を実施してまいります。

浸水対策を進めている健康と文化の森地区については、引き続き、まちづくりについて地権者等との意見交換を行い、事業区域及び土地利用計画案の検討を進めます。

善行駅周辺のバリアフリー化につきましては、東口駅前広場などの再整備を進めるとともに、駅から県立体育センターへ至る経路に、神奈川県と協調し、エレベーターを設

置するための設計を実施してまいります。

善行市民センター改築事業につきましては、第1期工事に着手し、辻堂市民センター改築事業につきましては、実施設計を進めてまいります。

藤が岡二丁目地区再整備については、PFI手法による民間活力を導入し、保育園を中心に公共施設の複合化を図りながら、より効果的・効率的な再整備に取り組んでまいります。

周辺施設との機能集約・複合化による再整備を進めてきた藤沢公民館・労働会館につきましても、平成31年度供用開始に向けた整備を進めるとともに、市民に親しまれる施設となるよう、愛称を広く募集いたします。

市民病院の再整備事業につきましては、事業の最終工事として、ロータリー内に平面駐車場やバス停留所を整備するなど、7月のグランドオープンに向けて、整備を進めます。

村岡公民館につきましては、建設検討委員会を中心に、アンケート調査やワークショップなどにより、地域住民と協働しながら再整備の基本構想を策定してまいります。

次に「誰もが移動しやすい交通体系の構築」として、住民組織により運営される地域公共交通に関しては、善行地区・六会地区の取組への支援を継続してまいります。平成



28年度から整備を進めている湘南ライフタウンバスターミナルの本年3月供用開始に伴い、辻堂駅までの区間に連節バスを導入するとともに、周辺のバス網を再編し、これまで交通空白地であった石川方面へのバス路線新設を進めます。

さらに「自然との共生に向けた環境保全の推進・エネルギーの地産地消の推進」として、生物多様性の保全と持続可能な利用を進めるために、新たに「藤沢市生物多様性地域戦略」を策定するとともに、シンポジウムの開催などにより、生物多様性の重要性について普及啓発を図ります。

最後に「市民生活に不可欠な社会資本・経済環境の整備」として、まず、超高齢化の進展や生産年齢人口の減少などによる人口構造の変化により、住まいのあり方も変容してくることから、新たに「藤沢市住宅マスタープラン」を策定し、団地再生や空き家対策などの様々な住宅課題に対し、庁内横断的に取り組んでまいります。

夏期期間中は、ペットボトルとカン・なべ類の毎週収集の要望が高いことから、これまでの試行区域を更に拡大して、引き続き検証を行ってまいります。

未来の市民生活を支えるロボット産業の推進については、さがみロボット産業特区が第2期となり、本市においても第2期プロジェクトとして「ロボット未来社会推進プ

プロジェクト」を開始します。プロジェクトでは、生活支援ロボットの利活用とロボット産業の振興の両輪によるロボットと共生する未来社会を目指し、産学官の連携強化を図りながら、引き続き自動運転の実証実験支援を含め、先進的な取組を進めてまいります。

### 平成30年度当初予算の概要

以上が、平成30年度の重点事業と関連する主な取組であります。

これらの取組を実行する平成30年度当初予算については、一般会計の歳入歳出予算が1,385億5,300万円、特別会計の歳入歳出予算が1,189億3,916万8千円、総額で2,574億9,216万8千円となっております。昨年度との比較では、一般会計で90.7%、特別会計で89.7%、全体で90.2%であります。

平成30年度当初予算につきましては、市役所新庁舎の建設事業が終了したことなどから、昨年度と比較して予算規模が縮小しておりますが、待機児童対策をはじめとする子育て支援施策、障がい者や生活困窮者などを対象とした扶助費の増加にはしっかりと対応し、藤沢駅周辺地区再整備事業や江の島地区周辺の整備など、将来に向けた都市基盤の充実を図るとともに、老朽化した公共施設再整備も着

実に進める予算として編成したものです。

今回の予算編成にあたりましては、予算編成方針を示した平成29年9月の段階で約112億円の収支かい離が生じておりましたが、歳出について事務事業の見直しや事業の優先順位付けなどを行うことにより、約90億円の圧縮を図りました。一方、歳入については国・県の補助金や市債などの特定財源の有効活用に努めるとともに、市税収入や県税交付金等の歳入見込みを精査し、一般財源ベースで約15億円の増加を見込みましたが、なお解消できなかった財源不足額の7億円について財政調整基金を活用し、収支の均衡を図ったものでございます。

## **新たな年度に向けて**

以上、平成30年度の市政運営の方針と施策の概要についてご説明させていただきました。

平成30年度当初予算は、大変厳しい財政状況の中での編成となりましたが、中期財政フレームでお示ししているとおり、今後の財政状況は引き続き厳しい見通しとなることから、こうした状況を市民の皆様としっかりと共有し、行財政改革2020に掲げる取組を着実に進めていかなくはなりません。

私は、将来にわたって都市の活力を維持するという観点

から、少子超高齢化の進展などにより想定される様々な将来課題に正面から取り組み、その上で、今から備えるべきことを一つひとつ丁寧に積み上げていくことが重要と考えております。

今後、様々な主体とのマルチパートナーシップを大切に育み、めざす都市像「郷土愛あふれる藤沢 松風に人の和うるわし 湘南の元気都市」の実現に向けて、気概を持ってひたむきに取り組む、後世に誇れるような持続可能な藤沢市を創り上げてまいります。

結びにあたり、日頃から広く市民の皆様の意見や要望を把握し、地方自治の発展にご尽力されている市議会に対しまして心から敬意と感謝を申し上げますとともに、今後とも議員各位のご指導と、市民の皆様のご理解とご協力を心からお願いいたしまして、平成30年度の施政方針といたします。